

岡山県花き消費拡大実行委員会（岡山県）

協議会構成団体：岡山総合花き株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部、岡山県、岡山市市場事業部、岡山県花卉農業協同組合、岡山花き仲卸協同組合、岡山県花卉商業協同組合、岡山県花木園芸商業協同組合、岡山県三栄生花商業協同組合

対象品目

切り花：りんどう
スイートピー
バラ
カーネーション



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- 県内各産地の課題を整理し、流通の効率化に取り組む契機とすることを目的に、専門家による講演や県担当者、流通関係者、農協担当者による検討会を開催した。

- 参加者約30人が5つのグループに分かれ、各産地の課題や現状について意見交換を行った。各産地の課題として、流通業者の確保、広域的な運送ルートの設定、物流規格の統一化、産地の問題意識の共有等があげられた。
- 専門家による講演では、花き市場全体における流通課題や対策に向けた取組事例等の紹介があり、本県の課題解決に向けた契機となった。



検討会の様子

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 県産花きの魅力発信を目的に、岡山市場でのイベントで、県産花きの装飾展示および紹介パネルを設置した。
- 新たな購入層の獲得を目的に親子花育体験を実施し、花の魅力を伝えるとともに花の扱い方に対する理解を深めた。

- イベントの参加者に対するアンケート（回答数19人（参加者人数24人））では、「イベント参加後、花の購入金額が増えた」と回答した者は68%であったことから、花育体験及び県産花きの展示は新たな購入層に対する花購入の動機付けとして有効であることが分かった。



親子花育体験の様子

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

県オリジナル品種の普及を目指し実証ほを設置

- 「岡山RND4号」について、さらなる産地拡大を目的にこれまで栽培事例がない低標高地での栽培適性を県内2か所で調査した。
- 令和4年から苗の供給を開始した「岡山RND5号」について、収穫初年の切り花品質について県内4か所で調査した。

- 「岡山RND4号」について、低標高地において夏期高温化の作型でも遮光率40%の寒冷紗により、定植年に十分な生育量を確保できた。今後、切り花品質や収量の調査を行う。
- 「岡山RND5号」の切り花品質は、開花期が同程度の慣行品種と草丈、花段数ともに同等以上で、実証場所によっては草丈が約10cm長く、花段数が1段多いことから、高規格品が多く収穫できると考えられた。



岡山RND4号の低標高地での生育状況

< 今後の取組予定 >

- 流通の効率化に関する取組について、令和5年度の検討会により産地や品目等によって課題が異なることが明らかとなったため、今後はテーマを絞って課題の整理を図る。
- 県オリジナルりんどうの実証では、低標高地に定植した「岡山RND4号」の切り花品質調査に取り組むとともに、希少なピンク系品種である「ピンク中生1号」について、培養親株の栽培、維持方法および挿し芽育苗育成技術の現地適応性を検討する。
- 花きのPRについては、引き続き県産花きの展示、親子に向けた花育事業に取り組み、花への興味関心を高めることで家庭内消費の拡大を図る。

広島花きイノベーション事業推進協議会（広島県）

協議会構成団体：広島県花卉園芸農業協同組合・広島生花出荷協同組合・広島県花き商業協同組合・広島市三友生花卸売商業組合・株式会社花満・株式会社広島県東部花き・株式会社呉生花市場・一般社団法人日本インドアグリーン協会広島県支部・広島県農林水産局農業経営発展課・NPO法人日本園芸福祉普及協会

対象品目

切り花：菊、他全般
鉢物：花苗



店舗振分(物流効率化)



高校生の花生け競技

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・予約相対商品等は、生産者・物流業者・市場が連携することにより流通経路を把握・情報共有等することで、必ずしも市場を経由せずとも納品可能なものが増えてきた。実需者（小売店）～流通業者～生産者が必要な情報を管理共有し、重複した作業の削減や物流の効率化により経費の削減を模索した。



・統一されたシステム上での受注生産情報共有の仕組みを作り、生産者・市場・物流業者間で情報共有することで販売先、販売単価、販売数量が早く確定できた。
・生産者が店舗振分等の役務作業を請け負うと内容と数量により、人件費等の負担が増えるが、その対価を受けることで役務収入が増えた（注文単価に反映）。
・配送業者の集荷により、市場出荷にかかる労力と時間が軽減できた。データ共有と早い販売確定により、特に需要期に、効率配送計画が可能。
・物流業者側の分荷にかかる労力・時間が減少し、さらなる営業に時間が割け、市場と連携して地元調達への提案も可能となり、生産者の収益増に寄与できた。



台車による集荷

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・地元の消費者が好む品目・用途などの傾向を調査することで、現時点の実情から将来の予測など、地方ならではの視点も含めて把握する。調査対象は、イベント等の機会に、本事業ターゲットの50歳代以下世代を中心として収集した。



・消費者需要調査では、花束やアレンジメントでの購入に人気が高く、消費者はプレゼントとしての花きの購入割合が多かった。コロナ禍で需要が増えたホームユース需要の花きは、コロナ禍後は落ち着きを見せ、イベント需要も少しずつ復活し、ホームユース需要はコロナ禍特需であったことは否定できないといえる。



イベントの様子

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・家庭内の花き購入額の増加及び花きについての理解醸成を目的とした花育の取組として、教育現場や地域の団体を窓口にした花きの効用効果をアピールするとともにアレンジメント講習会を実施した。また、若い感覚で新しいいけばなの魅せ方が出来る今の感覚にマッチした高校生による花いけ競技も実施した。



・需要開拓事業全般の視点から、花きのリピート購買になにが有効かなど、手法の目的と効果を比較しながら、本事業で実施した事業全般を花き業界内で把握し共有した。

・購買につながる効果的なPR機会とするため、生け方の説明中心ではなく、生けた後の管理方法等のアドバイスも伝え、後日、確認・活用できるよう前年度制作した動画等も提供。また、子供の声が親の購買に大きく影響することが確認できたため、ターゲットを子供（幼児・小学生）をもつ親世代とし、子供と一緒に花きをアピールする手法を用いた結果、今まで参加が少なかった20～40代等、花好きに限らず花に触れる機会を提供できた。また、大学生とコラボしたイベント後には、学生の花屋への再来店がみられ、イベントを契機に学生にとって花屋がより身近になったと推察される。

・高校生による花いけ競技は、実施場所やPRの工夫によってメディアの注目を浴びた。この競技参加をきっかけに、高校生と花き生産者等とのつながりが深化し、令和5年度以降、参加12校のうち4校が事業者側からの呼びかけでイベントなどで企画・パフォーマンスをし活躍している。
・アンケートの結果、花いけ競技にママを積極的に使うことでママの「仏花・お供え」イメージは薄くなってきていることが分かった。10代～80代の幅広い層から回答を得たことで、年代が上がるほど品質を求める等、年代別の傾向を把握できた。



講習会の様子



アンケートフォームQRコード

< 今後の取組予定 >

・花きの流通効率化については、システム導入により、これまで以上に地元生産者と市場・物流業者の連携が強化され、省力化と生産者の収益増の可能性が明らかになったことから、課題の解決に向けて需要期に可能なところから導入する計画である。

・ホームユース需要に対応した品目転換の取組については、アンケート結果を受け、地方であっても若い年代で切花の用途に変化が表れていることを生産者・小売店ともに共有し、生産品目選定等に反映していく。併せて、高校生等の花を活用した活動の支援を継続するとともに、若い力を借りながら消費者に向けての需要拡大策を図っていく。

花卉園芸振興協議会（山口県）

協議会構成団体：

山口県花卉園芸農業協同組合、山口県農業協同組合、(株)徳山花市場、
(株)山口県中央花市場、(株)下関合同花市場、花卉商代表、
(一財)やない花のまちづくり振興財団、(一社) JFTD75 花キューピット山口支部、
山口県地域消費者団体連絡協議会、山口県

対象品目

切り花：オリジナルリンドウ
オリジナルユリ
球根：オリジナルユリ



オリジナルリンドウ・ユリを使用したアレンジメント作品

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・ユリの球根について、球根産地生産者・球根販売業者・切り花生産者が、球根情報（産地・品種・数量等）をそれぞれ保管しており、受発注作業の省力化のために発注ミスのない効率的な管理手法が必要とされていたため、商品情報をQRコードで管理するシステムの実証を行った。

・商品情報を産地段階からQRコード管理システムを用いて管理することによる、商品管理及び受発注作業の効率性を検証できた。実証により、球根管理にかかる作業時間は10～15分ほど減少し、作業人数が各作業につき1～2人減少した。また、入力ミスや途中管理で生じる間違いは減少することが確認できた。



ユリの球根のバーコード管理

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・ホームユース需要の高い小輪系ユリへの品目転換を推進するため、実需者への需要量等を確認する意見交換会等を実施した。

・ホームユース需要について、実需者候補とのWEB会議や意見交換会を行い、関東では2～4輪の規格が好まれる等の規格のニーズや、必要時期や出荷量について確認ができた。需要の掘り起こしを行うことで、小輪系ユリの推進を図っていく。



小輪系ユリ

3. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・栽培上問題となっているアブラムシ類やアザミウマ類の対策として、シルバーマルチの技術導入を検証した。
・化学肥料の高騰に対して、緑肥のすきこみによる環境負荷軽減技術の導入を検証した。

・害虫対策で実証したリンドウのシルバーマルチは、白黒マルチと比較して、アザミウマの飛来数が少なかった。白黒マルチに比べシルバーマルチは資材費が高くなるが、シルバーマルチの活用によりアザミウマの飛来数が減少し、防除回数や薬剤コストを削減できることから、栽培全体に掛かる経費が10aあたり約5,000円低減できる可能性が示唆された。

・ユリ球根増殖において、緑肥作物を作付け、すきこみ処理により地力の増進と基肥の削減を図るため実証を行った。ユリについては、有機物の投入による土壌の物理性改善により定植や収穫の作業性が向上するため、緑肥栽培は有効であると考えられた。



緑肥

< 今後の取組予定 >

- ・流通の効率化については今後も検討を行っていく。また、QRコード管理システムについては、首都圏での販売やフェアなどの販路では今後導入を検討している。
- ・ホームユース需要に対応するユリ栽培に拡大の取り組みを進める。
- ・環境負荷軽減技術については、効果を継続して検証する。

とくしまの花振興協会（徳島県）

協議会構成団体：全国農業協同組合連合会徳島県本部、徳島市農業協同組合、東とくしま農業協同組合、板野郡農業協同組合、名西郡農業協同組合、阿南農業協同組合、かいふ農業協同組合、麻植郡農業協同組合、阿波みよし農業協同組合、徳島県洋ラン生産組合、徳島県鉢物洋蘭振興会、阿波洋らん青年倶楽部、（株）TKなにわ花いちば、徳島県

対象品目

切り花：シンビジウム、ユリ、トルコキキョウ等
切り枝：黄金ヒバ等



シンビジウム



ユリ



黄金ヒバ

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・花き流通関係者（生産者団体、花き市場、運送会社等）が連携し、物流問題に取り組む必要がある。関係者を集め、県内の花き流通効率化に向けた検討会を開催した。
・需要者ニーズに応じ、大きなシンビジウム品種用の出荷箱の規格を新設・テスト輸送を実施した。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・関西市場での需要を捉えた品目へ転換するにあたり、主要消費地である大阪で開催された「なにわ花まつり」にて需要調査を実施した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・若年層への消費拡大活動として、「園児・児童の保護者を対象としたフラワーアレンジメント体験」を開催。
・小学校4～6年の児童にシンビジウムの花育活動を実施。
・県内の駅構内や道の駅でフラワーアレンジメントを展示した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・燃油価格高騰から、生産の低コスト化を図るため、シンビジウム栽培で使用する暖房機に「エコ・ステンフィン2」※を設置し、燃油使用量等の実証を行った。
・省エネ・省力化及び作業安全に関する研修会を開催した。

※エコ・ステンフィン2…加温機缶体に巻き付ける、ステンレス製の資材。加温機の表面積を広げ、資材がもつ蓄熱効果で燃油の削減が期待される。

< 取組の成果 >

・花き流通における問題の把握、課題の共有を行い、県下一丸となり継続した取組が必要であるとの共通認識を持つことができた。
・既存箱では大輪品種15本の容量であったが、新規箱では25本まで増加。大量出荷時の物流コストも4割近く抑えることができた。テスト輸送を実施した市場からも「輸送面・強度面・品数等に問題ない」と回答を得られた。



新規作成した出荷箱

・定番のシンビジウムやユリなどは継続して取り扱いたいとの意見があったが、仕入れ時には色や花持ち、価格を重視している方が70%を占めた。
・染め花の色味は、青色や淡い暖色系の要望が高かった。
・需要調査で得られた結果は産地にフィードバックをし、今後の品目選定に活かす。



なにわ花まつりの様子

・体験には、45名（大人24名、子供21名）が参加し、「今回をきっかけに県産花きを意識して購入したいと思った」と7割が回答した。
・小学校で花育を開催した1か月後に保護者向けアンケートを実施した結果、「子供たちの花への関心は高まったと思う」と74%が回答。家庭での購入頻度は「増えた」、「これから買おうと思う」が9割を占めた。
・県産花きの種類の豊富さをPRした他、フラワーアレンジメント展示を見た来場者からは「引き続き購入・今回をきっかけに県産花きを購入してみたいと思った」と78%が回答。



花育授業の様子



フラワーアレンジメントの展示

・暖房機が小型であったことや省エネ資材の設置枚数が不十分であったことが原因で、エコ・ステンフィン2を設置する実証区と、慣行栽培を行う対照区で、燃油使用量の差は見られなかったが、より大型の暖房機で使用するれば保温効果の向上が見込まれる。
・県内生産者や県の研究機関など23名が参加した。花き栽培の省力化や安全意識を啓発することができた。



「エコ・ステンフィン2」設置の様子

< 今後の取組予定 >

・花き流通の効率化の取組として、生産者や物流関係者と先進地視察を実施する予定。
・ホームユース需要に対応するため、引き続き需要調査に取り組み、染め花の開発や品種転換に役立てていく。
・花育については、継続して若年層や児童向け中心に実施し、県産花きのファンを獲得していく。
・省エネ資材の実証は、実証区と対照区の立地条件をなるべくそろえて、継続して観察する。また、花きの反収増加に向け、生育前進化の実証試験を新たに実施する予定。

花の里かがわ推進委員会（香川県）

協議会構成団体：香川大学、香川県花き園芸協会、株式会社高松花市場、香川県花卉商業協同組合、香川県農業協同組合、農林中央金庫高松支店、香川県連合自治会、公益財団法人香川県老人クラブ連合会、一般社団法人香川県婦人団体連絡協議会、香川県生活研究グループ連絡協議会、香川県消費者団体連絡協議会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会香川県支部、香川県園芸文化協会、JA香川県女性部、香川県商工会連合会、公益社団法人香川県観光協会、公益財団法人日本いけばな芸術協会、香川県盆栽生産振興協議会、香川県

対象品目

切り花：
ランタンキュラス、
キク、草花



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・2024年問題を見据えた花き物流の安定的な確保に向けて、意見交換会やセミナーの開催、出荷情報のデジタル化による花き物流効率化の検討、ランタンキュラスの低コスト出荷資材と品質保持効果の検討を行った。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組・

・輪ギクの需要が低迷するなか、白輪ギくからホームユース需要等に対応した品目・品種等への転換するため、栽培実証試験や市場調査を実施した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・県産花きの認知度向上・花きの消費拡大を目的に「全国高校生花いけバトル香川大会」の開催及び「フラワーフェスティバルかがわ2024」の会場において花いけが体験できるコーナーを設置し、社会人を中心に県産花きにふれてもらう機会を提供した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・ランタンキュラスの優良種苗生産供給において、増殖培養時の最適管理条件を明らかにするため、実証を行った。また、県オリジナル品種として、新たに普及予定のオレンジ色の新系統について、産地でのスムーズな普及を図るため、現地での栽培特性について調査した。

< 取組の成果 >

・「かがわ花き流通効率化システム」を構築し、商品ラベルの発行やラベルの読み取りによる出荷報告書・送り状の作成ができた。また、これをデータで出荷市場に送付することで、市場側から販売金額や販売先の情報を入力・返送することができたが、継続的な仕切の返信には課題が残った。実証試験と市場担当者との意見交換を通じて、システムの実用化に向け次の段階の課題を洗い出すことができた。

・ランタンキュラスの新たな出荷箱の規格の検討・実証を行い、箱の高さを低くすることで、品質や作業面には問題なく、トラックの積載効率が向上することが分かった（2段→3段）。



輸送実証試験

・栽培実証試験では、需要が見込まれるボンボン咲きのキクについて、生育の特性が把握できた。市場調査では、一定の市場評価が得られた一方で、花卉の痛みや花散りが見られたため、切前や入荷本数、出荷時期について改善が求められた。

・「全国高校生花いけバトル香川大会」では、11校17チームが参加し、94%が「今回のイベントを通じて、今以上に家や学校に花を飾りたいと思った、あるいは少し思った」と回答。また、当日は観客300人が来場し、来場者（回答数115人）の92%が、「今回のイベントで今以上に家庭に花を飾りたいと思った」と回答し、出場者・来場者ともに、花きの活用促進につながった。

・花いけ体験コーナーの参加者へのアンケート回答（回答数59人（参加者人数120人））では、95%が「花いけ体験を通じて、家や学校・職場でより花をいけたいと思った、あるいは少し思った」と回答し、花きの消費拡大につながることが期待された。



全国高校生花いけバトル

・品種によって適正な日長時間が異なることが確認できた。また、照度の違いが継代培養苗の生育に及ぼす影響について確認できた。

・冷蔵処理時の出芽状況について、現地で栽培されている他の「てまり」シリーズと比較し遅い傾向にあることが分かった。温度を上げることにより、出芽したケースも見られたため、今後、冷蔵処理温度の検討が必要と考えられた。



現地試験

< 今後の取組予定 >

- ・花き流通体制の効率化に向けて、「かがわ花き流通効率化システム」について、輸送試験を通じて得られた新たなシステムの課題を改善してより実用的な形に近づけるとともに、複数の市場との連携体制を築いていくこととする。また、県内市場向けの花きの集荷について、県内に数か所の集荷拠点を設置し、台車を導入することで集荷に要する時間を短縮出来るか実証を行う。
- ・高校生花いけバトルや産地交流会の開催・普及啓発活動を通じて、県産花きの認知度向上・消費拡大に取り組む。
- ・県産花きの生産性向上に向けて、ランタンキュラスの新品種の最適な冷蔵処理温度の検討などに取り組む。

高知県園芸品販売拡大協議会（高知県）

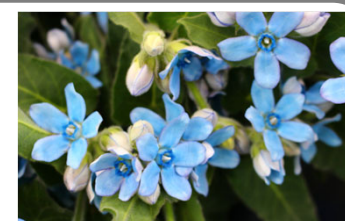
協議会構成団体：高知県、高知県農業協同組合、土佐花き園芸市場

対象品目

切り花：グロリオサ、ユリ、オキシペタラム、トルコギキョウ



グロリオサ



オキシペタラム

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・2024年問題のトラックドライバー不足に対応するため、JRコンテナを利用した鉄道輸送および花き出荷箱の統一化により、実証試験を下記のとおり実施。

時期：6月、12月、2月

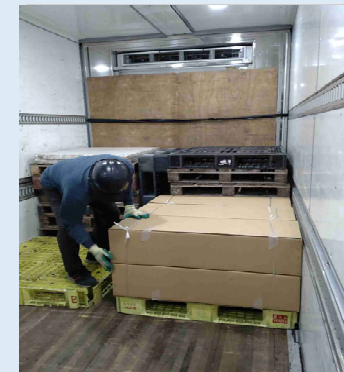
輸送：高知から東京までは、基本トラック輸送

試験①JRコンテナ試験：ユリ、グロリオサ、オキシペタラム
高松－東京間を鉄道輸送試験②統一箱試験：ユリ、グロリオサ、トルコギキョウ
3品目共通の統一箱に梱包してトラック輸送試験③慣行：ユリ、グロリオサ、オキシペタラム、
トルコギキョウ 各品目の慣行箱、トラック輸送

- ・JRコンテナ試験では、JR基地の出発時間の兼ね合いにより、慣行輸送より数時間から1日程度手前から出荷調整にかかるものの、輸送による傷みなどなく、開花状況にも問題はなく輸送方法の1つとして確認できた。
ただ、輸送中の事故があった場合の輸送時間の延長に対応する鮮度保持対策なども要すると考えられた。

- ・統一箱試験では、市場の着荷の状態やその後の開花状況にも問題はなかった。今回使用した統一箱は慣行箱よりやや大きいサイズであったため、慣行箱より統一箱は積み込み時間にやや時間を要したが、ドライバーへの聞き取りでは問題にならない差であった。

なお、今回の統一箱を採用する場合は入り本数など検討を要する。また、産地内でも生産者によって出荷箱サイズが異なり潰れる事例もあることから、産地内や産地間で箱を揃えていくことを提案していく。



統一箱の積み込み試験

2. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・花き消費面において花きの活用や花文化の振興を図るため、高校生等の若い世代から社会人を対象に花に親しむ機会である花育体験（高校生対象の花いけバトル練習会）及びワークショップ（50代以下の社会人対象）を実施した（6月および11月。練習会とワークショップは同日実施）。

- ・花いけバトル練習会のはべ11校53名が参加した。参加者へのアンケート調査では、28名が「自宅でも花を飾ってみたい」、23名が「高知の花についてもっと知りたい」と回答し、花に対する興味喚起を図れた。
- ・ワークショップは40名の参加があった。ワークショップ実施から数ヶ月後に実施した参加者アンケートからは、「花を自宅に飾った」、「誕生日や引っ越し祝いに花を買った」などの声も寄せられ、消費の増加につながった。



花いけバトル練習会

< 今後の取組予定 >

- ・トルコギキョウ、オキシペタラムでは、効果のある登録農薬が少なく、同じ薬剤を連用することによる感受性の低下により被害を抑えきれず、化学農薬に頼らない防除技術が求められている。そこで、赤色LED防虫灯の日中照射によるアザミウマ類の発生抑制効果を検証する。
- ・グロリオサでは、次作に使う塊茎品質の低下が問題になっており、これまで未導入であった環境測定装置等（ハウス内温度や湿度、地温、体積水分率等測定）を導入することによって、データに基づいた栽培環境（とくに養成期間）を改善することで、品質の良い塊茎を確保できる環境を検討する。
- ・高校生等の若い世代から社会人を対象に花に親しむ機会を創出し、県産花きの需要拡大を図るため、花育体験及びワークショップを実施する。